

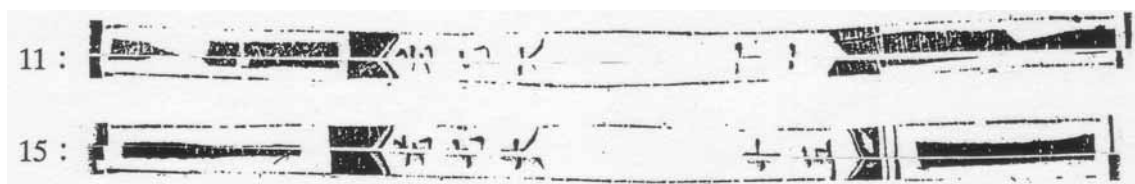
漢字本『老乞大』の版心について

竹越 孝

『奎章閣叢書』第九『老乞大諺解』(京城帝國大學法文學部, 1944年)に影印が収録されている刊年不明の漢字本『老乞大』(現在の所蔵はソウル大學校奎章閣、蔵書番号: 奎 6293)は、『翻譯老乞大』(1517年以前)、『老乞大諺解』(1670年)、平安監營重刊本『老乞大諺解』(1745年)などともに、崔世珍『老朴集覽』にいう「今本」あるいは「新本」の系統に属するものであるが、字句の異同から見て、上の四種の中では最も古形を存していると考えられる。その考察の詳細については別稿を予定しているが、ここでは校勘作業の過程で気がついた漢字本『老乞大』における版心の異同について簡単に報告しておきたい。

附載の資料は、『奎章閣叢書』のリプリント版(『老乞大諺解・朴通事諺解』, 聯經出版事業公司, 1978年)のコピーから漢字本『老乞大』全四十八丁(pp. 261-356)の版心部分を切り取って貼り合わせたものであるが、丁によって象鼻の黒口/白口と、魚尾の形状が異なっていることが見て取れる。

まず、象鼻の黒口は06、11、12、15の四丁で、白口はそれ以外の四十四丁である。第11丁表の上下と第15丁裏の上では黒口の部分が見られないが、これらは影印の不具合であるらしく、近年刊行された『奎章閣資料叢書・語学篇(一)老乞大・老乞大諺解』(ソウル大學校奎章閣, 2003年)における同本の影印(pp. 3-98)では次のように存在を確認することができる*。



次に、版心の上下に魚尾があることは共通しているものの、その形状は極めてバラエティに富んでいる。いま細かい相違を捨象して上魚尾・下魚尾ごとに分類を試みると次のようになる。分類に疑問の残るものには(?)を付した。

(1) 上魚尾

A(花魚尾状): 01、02、04、08、10、13、18、22、23、25、26、27、28、29、31、33、34、35、36、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48

B(黒魚尾+線): 03、05、06、07、11、15、19(?), 24(?), 30、37

C(黒魚尾): 09、12、14、16、17、20、21、32、38

(2) 下魚尾

A: 01、02、15、18、22、25、26、27、28、29、31、32、33、34、35、36、

37、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48
B : 05、12、30
C : 06、11、16、17(?), 21、38
D : 03、04、07
E : 08
F : 09
G : 10
H : 13、14
I : 19、20
J : 23
K : 24

以上から、魚尾の種類は上魚尾に比べて下魚尾の方が豊富であり、上魚尾に存在しないD~Kタイプを持っていることがわかる。

魚尾の組合せで最も多いのは上下ともAタイプ、即ち花魚尾のような形をしているもので、01、02、08、18、22、25、26、27、28、29、31、33、34、35、36、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48の二十五丁がこれにあたる。この組合せは第25丁以降に多く、全体的に見て後に行くほど魚尾の形が安定しているように思われる。

こうした黒口/白口の別や魚尾の形状の相違が何を物語るものなのか、書誌学に疎い筆者には判断がつかないが、現段階で考えられるのは版木の磨滅による改刻か刻工の相違である。ただし、改刻ということでは魚尾にこれほど多くのタイプが存在することの説明がつかないから、刻工の相違と見る方がより自然であろう。漢籍の宋元版では版心の下部に刻工名を入れることがよく行われるが、朝鮮版では刻工がそれぞれ自分用の魚尾を持っていた、つまり魚尾の形が刻工名の役割を担っていたということが考えられる。

もちろん、影印本では魚尾の正確な形状までは把握しがたいので、このような考察をなすには原本の実見に基づく調査が必要であることは言うまでもない。また、より大きな問題は、こうした版心の相違が字体や符号の使い方など内容上の差異を反映するか否かということであるが、この点については作業の途中であるため、後考に譲ることとする。

* この影印本は奎章閣叢書本に比べて版心の部分が狭く切り取られる傾向にあるため、今回の作業には用いなかった。

01 : 老先夫 一

02 : 老先夫 二

03 : 老先夫 三

04 : 老先夫 四

05 : 老先夫 五

06 : 老先夫 六

07 : 老先夫 七

08 : 老先夫 八

09 : 老先夫 九

10 : 老先夫 十

11 : 老先夫 十一

12 : 老先夫 十二

13 : 卷之六 十一

14 : 卷之六 十二

15 : 卷之六 十三

16 : 卷之六 十四

17 : 卷之六 十五

18 : 卷之六 十六

19 : 卷之六 十七

20 : 卷之六 十八

21 : 卷之六 十九

22 : 卷之六 二十

23 : 卷之六 二十一

24 : 卷之六 二十二

25 :

老北水 二十五

26 :

老北水 二十六

27 :

老北水 二十七

28 :

老北水 二十八

29 :

老北水 二十九

30 :

老北水 三十

31 :

老北水 三十一

32 :

老北水 三十二

33 :

老北水 三十三

34 :

老北水 三十四

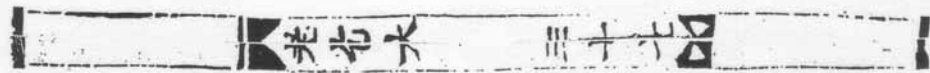
35 :

老北水 三十五

36 :

老北水 三十六

37 :



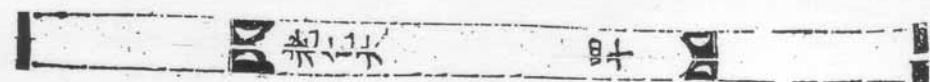
38 :



39 :



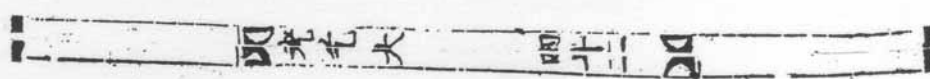
40 :



41 :



42 :



43 :



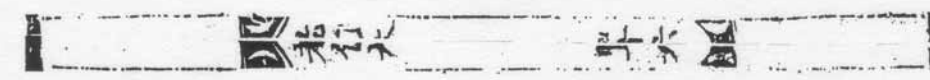
44 :



45 :



46 :



47 :



48 :

